

進取開拓



教育目標
自ら学ぶ生徒
自ら活動する生徒
自ら鍛える生徒

第12号 令和6年3月22日（金）伊達市立伊達中学校

第七十五回卒業式

伊達中学校長 高橋 秀 壽

○令和6年3月12日火曜日に久しぶりとなる全校生徒参加の卒業式を挙行了しました。笑顔の3年生に卒業証書をしっかりと手渡しました。伊達中学校の伝統を全校で紡ぐ良い儀式的行事となったと思います。校長式辞で次のような内容を話しました。

『新しい道を歩み始める卒業生の皆さんへのはなむけとして、私の経験したことと生き方の手本とした三つの話をしたいと思います。皆さんの今後の生き方の参考になれば幸いです。

一つめは、私が教師を目指すきっかけです。小さい頃より野球ばかりして過ごしました。気が付けば中学2年の秋です。学習は全くしていませんでした。英語の授業で受動態の作り方がありました。その作り方を見て英語はルールが簡単だと思いました。それから英語が好きになりました。3年となり将来を考えました。野球と英語ができる仕事はないかと探し、教師を志しました。夏の大会が終わってからは、入試まで3時間睡眠で学習しました。毎日復習予習をしておれば慌てることはなかったと思います。

二つめは、吉川英治の小説『宮本武蔵』の一場面です。武蔵が宿敵佐々木小次郎との果し合いに出発する日、友人の本阿弥光悦が武蔵の弟子の権之助に語ります。「驕った天才と、平凡な質を懸命に努力した人と、いずれが勝つかの試合ですな」「武蔵様も、平凡な質とは思われませんが」「いや決して、天才の質ではありませんまい。その自らの資質を頼りにしている風がない。あの人は、自分の平凡な質を知っているから、絶えまなく、研こうとしている。人に見えない苦しみをしている。それが、何かの時、突然と光って出ると、人はすぐもって生まれた才能だという。努力しない人が自らのなまけをなぐさめてそういうのですよ」。私自身武蔵のように努力し続ける人でありたいと思ってこのページを読み返しては戒めとしています。

三つめは、幕末の昌平坂学問所の学者佐藤一斉の言葉です。「少にして学べば、則ち壯にして

為すことあり。壯にして学べば、則ち老いて衰えず。老いて学べば、則ち死して朽ちず。」意味は、「少年のとき学んでおけば、壮年になってから役に立ち、何事かを為すことができる。壮年のときに学んでおけば、老年なっても気力が衰えることはない。老年になっても学んでおけば、ますます見識も高くなり、社会に役立つこととなり、死んでからもその名は残る。」です。人生いつでも学ぼうとする姿勢が大事だということです。

最後に、野球のイチローさんの言葉です。高校生に次のような言葉を伝えてあります。「みんな努力は報われる、練習は嘘をつかないとかよく言うけど、実際はなかなか報われない。努力したら報われると思っている人は見返りを求めている。見返りを求める姿勢が駄目。練習しないとうまくなれないのは確定しているけど、練習したからうまくなるわけではない。努力しているのは第三者が決めること。自分は普通にやっているけど、人から見ると頑張っているな、という状態まで上がってきてほしい。頑張っている感触から抜け出さないと、越えられない」。他人と同じ努力ではいけない。評価は他人がするものだということです。』

これからの時代、内側ではなく外側を向き、同調圧力に屈するのではなく自分の判断で自分の責任において行動する人生を歩んでください。家族を大切に、笑顔を絶やさないでください。心から語り合える友人を作ってください。故郷伊達の町をそして、日本を大切にしてください。

最後に私事ですが、この3月で校長職を定年となります。伊達中学校には一般職で2年と合わせて4年お世話になりました。伊達中学校で校長職を終えることは本当に嬉しい限りです。地域の皆様、保護者の皆様、関係機関の皆様に沢山助けられました。皆様の今後の益々のご活躍、ご発展を祈念致します。本当にありがとうございました。



ご挨拶 ～退職・転出する職員より～

教頭 加賀 靖朗

白老町立白老中学校へ転出

在職中の3年間、子どもたちからは多くのことを学ばせていただき、ご家庭や地域の皆様には力強いご支援をいただき、大変充実した日々でした。大変お世話になり、ありがとうございました。

教諭 福山 文夫

退職

教職員生活42年間の中で、伊達中学校には新卒の4年、退職前の9年、再任用で5年と、合計18年間お世話になりました。妻も伊達中学校には15年間勤務、息子は二人とも伊達中学校卒業と、「福山家」としては30数年に及んで伊達中学校とは関係がありました。これまでたくさんの先生方や生徒のみなさんに支えられて、今日という日を迎えることができました。退職後の「第2の人生」でも、自分らしさ(?)を失わずに頑張っていると思っています。これまで本当にありがとうございました。

教諭 吉川 郁子

伊達市立星の丘中学校へ転出

特別支援学級の生徒の皆さんと一緒に、笑ったり、泣いたり、怒ったりしながら、あっという間の充実した6年間でした。地域の皆さんにご協力いただき、地域販売学習や地域交流会などの行事が実施でき、貴重な経験をさせていただけたことに感謝いたします。伊達中学校での経験を次の学校で生かしていきたいと思っています。ありがとうございました。

教諭 滝脇 聡子

室蘭市立室蘭西中学校へ転出

伊達中学校では6年間お世話になり、本当にありがとうございました。伊達の方々には本当に優しく、とても仕事がしやすかったです。来た年に行った雨のTDLも、コロナ禍の分散登校、4年ぶりの合唱コンクール…、すべてが良い思い出です。本当にありがとうございました。

教諭 中谷 亮太

安平町立早来学園へ転出

4年間お世話になりました。多くの生徒や保護者の皆様、先生方に恵まれ、充実した伊達中学校での生活を送ることができました。心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

教諭 星 洋子

退職

伊達中学校へは2022年8月より勤務致し、この3月末で1年8ヶ月を終え退職致します。支援学級に籍を置き、通常学級の1～3年生の家庭科を担当しておりました。ご父兄の皆様のご理解とご協力のもとに、職場環境にも恵まれ、大過なく勤務することができました。感謝申し上げます。誠に有難うございました。

業務職員 新留 正敏

退職

10年間お世話になり、皆様には今まで何かとご迷惑をおかけしましたが、ありがとうございました。

教諭 岩井 公司

伊達市立東小学校へ転出

このたび、7年間勤務してきた伊達中学校を離任し、4月からは、お隣の東小学校に勤務することとなりました。これまで、生徒、保護者、教職員の皆様には大変お世話になりました。春からは、小学校で教鞭をとるという初めての経験で、緊張と期待を胸に新生活をスタートさせます。小学生たちがスムーズに伊達中学校に進学できるように、これまでの経験を生かして、今まで以上に優しく、わかりやすい授業を目指していきたいと思っています。伊達中学校区の学校ということで、またお目にかかる機会があると思いますので、その時は、またよろしくお願いたします。これまで、本当にありがとうございました。

教諭 宮田 智文

豊浦町立豊浦中学校へ転出

伊達中には、1度目と合わせると13年間お世話になりました。2度目の伊達中では、3年目に新型コロナの影響で様々な活動ができなくなり、2ヶ月の臨時休校、分散登校、リモート授業など、今までにない経験をしました。今はコロナもあけ、様々な行事が戻ってきました。全校生徒で迎えた予餞会、卒業式は在校生にとっても、卒業生にとっても、先輩や後輩の姿を実際に見ることができ、とても大切なことだとつくづく感じました。4月から赴任する豊浦中学校も2度目の勤務校になりますが、伊達中での経験を活かし、新たな気持ちで頑張りたいと思っています。ありがとうございました。

養護教諭 川上 智子

豊浦町立大岸小学校へ転出

6年間お世話になりました。伊達中学校伝統の挨拶と合唱に感動し、何事にも全力で頑張る子どもたち、力のある先生方のパワーに圧倒された6年前から、あっという間の時間でした。今までにない感染症拡大という非常事態の中でも、たくさん子どもたち、保護者のみなさま、先生方との出会いから、たくさん経験をさせていただきました。伊達中学校でのすべての出会いに感謝いたします。本当にありがとうございました。

教諭 中川原 元就

苫小牧市立沼ノ端中学校へ転出

3年間という時間は、短いようで、とても長く、自分自身大変勉強になりました。皆様のご活躍を、遠い地からお祈り申し上げます。ありがとうございました。

スクール・サポート・スタッフ 酒井 咲

退職

2年間、大変お世話になりました。元気に挨拶してくれる伊達中生のみなさんに、日々パワーをもらっていました。ありがとうございました。

介護員 岡田 里佳

退職

1年間、8組の皆さんと一緒に、とても楽しく過ごさせていただきました。ありがとうございました。これからも8組の皆さんが笑顔で学校生活を送れるよう応援しています。

お世話になりました！